



名大トピックス

No.98 平成13年8月31日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

「法人格取得に向けての人事・労務制度、 財務・会計制度」に関する説明会を開催



猿渡 専門官(文部科学省大臣官房会計課)



CONTENTS

「法人格取得に向けての人事・労務制度、財務・会計制度」に関する説明会を開催.....	2	教育学部と韓国高麗大学との学生交流が実現.....	11
松尾総長、国立大学協会副会長に就任.....	3	東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修を開催.....	12
情報メディア教育センター外部評価委員会を開催.....	4	新任部局長等の紹介.....	13
アイソトープ総合センターが原子力安全委員会と共催でシンポジウムを開催.....	5	退職者へ永年勤続者表彰が行われる.....	13
架谷昌信 教授が工学教育賞及び文部科学大臣賞を受賞！.....	6	ウズベキスタン・サマルカンド国立大学長が来訪.....	13
附属高校が第1回「一日総合大学」を実施.....	7	韓国・忠南大学校総長が来訪.....	14
熱帯・亜熱帯地域の野外研究活動に関わる健康管理セミナーを開催.....	8	訃報 芦田 淳 元学長逝去.....	14
第1回理学懇話会が開催される.....	8	伊藤圭介没後100年記念シンポジウム 「江戸から明治の自然科学を拓いた人」.....	15
工学部懇話会を開催.....	9	大学史資料室公開シンポジウム 「開かれた大学」とこれからの文書資料管理・情報公開... ..	16
工学概論第4「がんばれ後輩！」が行われる.....	10	名古屋大学職員創作美術展・作品募集について.....	17
		本学関係の新聞記事掲載一覧(13年7月分).....	18



「法人格取得に向けての人事・労務制度、財務・会計制度」に関する説明会を開催

「法人格取得に向けての人事・労務制度、財務・会計制度」に関する説明会が、事務局の主催により、7月18日に多元数理科学研究科大講義室で開催されました。

この説明会は、国立大学の法人格取得に向けての勉強会という趣旨で、本学の掛長・専門職員以上の役職者を対象に開催されたものです。第1部「人事・労務制度」では、白石総務部人事課長から、法人格取得後の人事制度の概要と法人に必要とされる規則等に関する説明があり、第2部

「財務・会計制度」では、文部科学省大臣官房会計課から猿渡専門官を講師に迎え、法人格取得後の財務・会計制度の概要や文部科学省の「国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議」における検討の方向及び今後のスケジュール等に関し詳細な説明が行われました。

当日は、150人を超える役職者の出席があり、国立大学の法人格取得問題に対する関心の高さから、講師の説明に熱心に耳を傾けていました。





松尾総長、国立大学協会副会長に就任

6月12日に開催された国立大学協会理事会において、新たな会長・副会長等の役員の改選が行われ、本学の松尾総長が副会長に選出されました。

松尾総長の副会長就任は、本学としては初めてのことであり、国立大学協会が国立大学の法人格の取得問題、文部

科学省の「大学（国立大学）の構造改革の方針」（いわゆる遠山プラン）等への対応等、難しい問題が山積している中、今後の松尾総長の活躍が期待されます。

なお、任期は平成13年6月14日から2年間です。

国立大学協会の組織

創 立：昭和25年7月13日

会員大学：99国立大学

目 的：国立大学相互の緊密な連絡と協力を図り
その振興に寄与することを目的とする。

- 総 会（春秋2回開催。各国立大学の代表者）
- 理 事 会（会長・副会長を含む理事21名。各常置委員会委員長）
- 常務理事会（会長・副会長、各常置委員会委員長）
- 監 事（2名）
- 常置委員会
- 第1常置委員会（理念、体制・組織、管理運営）
- 第2常置委員会（入学者選抜）
- 第3常置委員会（教養教育、学部専門教育、学生生活）
- 第4常置委員会（教職員の待遇改善）
- 第5常置委員会（学術交流、国際協力）
- 第6常置委員会（財 政）
- 第7常置委員会（研究、大学院、生涯学習、学術情報）
- 第8常置委員会（評 価）



情報メディア教育センター外部評価委員会を開催 - 大学における情報メディア教育の将来像について、貴重な助言を得る -

情報メディア教育センターは、6月27日、グリーンサロン東山において平成12年度情報メディア教育センター外部評価委員会を開催しました。

この委員会は、平成12年度の情報メディア教育センターの活動について、各委員からの評価を得て、今後の教育・研究活動に生かしていくことを目的に開催されたもので、当日は、坂元昂 メディア教育開発センター所長、山下興亜 中部大学副学長、棚橋純一 中京大学情報科学部教授及び池田高等教育研究センター教授の各委員の出席がありました。

会議に先立ち、山本センター長からあいさつと、本年3月に刊行した『情報メディア教育センター自己評価報告書』を各委員に配布した旨報告が行われ、引き続き担当教官から、資料に基づき、システム紹介（PC利用コーナー）及びコンテンツ作成支援（マルチメディアスタジオと日本語版WebCTの開発）についての詳細な報告が行われた後、質疑応答が行われました。さらに、「大学における情報メ

ディア教育の将来像」と題してフリーディスカッションが行われ、委員から人的・予算的に制約のある中で確実な成果を挙げている活動が高く評価されました。

総評として、これからの情報メディア教育について、センターの役割をさらに明確にし、限られた人材の中でいかに効率的に成果を生み出すかが今後の課題ではないかとの指摘がありました。

なお、今回の委員会の内容は、報告書として取りまとめ公表する予定です。

情報メディア教育センター外部評価委員

坂元 昂	メディア教育開発センター所長
石黒 大山	東海テレビ放送株式会社代表取締役副社長
棚橋 純一	中京大学情報科学部教授
山下 興亜	中部大学副学長
池田 輝政	名古屋大学高等教育研究センター教授





アイソトープ総合センターが原子力安全委員会と共催でシンポジウムを開催

アイソトープ総合センターは、7月19日シンポジオンホールにおいて、シンポジウム「放射線・RI施設における情報公開のあり方と問題点」を、原子力委員会との共催で開催しました。

参加者は全国各地の国・公・私立大学、民間企業等約100名（うち学外者70%）を数え、全国的に関心の高さを示すものとなりました。

最初に西澤センター長から、求められる情報の公開の方法、情報の開示・不開示の基準、一般社会と大学の接点、マスコミや一般市民の情報開示に対する思いを大学としてどう受け止めていくかを今回の議論のベースにしたいなど、シンポジウムを開催するに至った経緯等について説明がありました。次いで、伊藤高義 法学研究科教授から「情報公開法の概要について」と題した、情報公開法の主な内容、開示・非開示情報判断の考え方等についての講演がありました。また西澤センター長より、今回やむを得ず欠席され

た岡本浩二 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室長から、『障害防止法に提出等が規定されている文書は全て開示対象となり、申請書も原則開示。立ち入り検査関係、管理状況報告書、定期検査関係も原則開示となる』旨のコメントがあったと報告がありました。

休憩後、大森雅弥氏（中日新聞社会部記者）から「一般市民、マスコミから見た放射線・RI施設における情報公開の受け止め方」と題し、一般市民及びマスコミから見た情報公開のあり方についての講演がありました。次いで、河出 清 工学研究科教授（本学原子力委員会委員長）から、「名古屋大学の放射線・RI施設における情報公開への取り組み」と題し、本学における情報公開基準策定に向けての基本的な考え方等についての講演がありました。

最後に、総合討論として、大学の情報公開に対して企業の関与の仕方、開示・不開示判断の基準等活発に討論が行われ、盛会のうちに閉会しました。



西澤センター長によるあいさつ



架谷昌信 教授が工学教育賞及び 文部科学大臣賞を受賞！

架谷昌信 工学研究科教授は、7月17日に開催された(社)日本工学教育協会の第49回通常総会において、工学教育賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。

工学教育賞は、我が国の工学教育に対する先導的、革新的な試みによって、高等教育機関における工学教育の発展に多大のインパクトを与えた業績3件に対して授与され、さらにその中で最高の業績を挙げたものについて、文部科学大臣賞が授与されるものです。

同教授は、8大学工学部長懇談会の下に設置された「工学におけるコア・カリキュラムに関する検討委員会(平成8年度)」、「工学における教育プログラムに関する検討委員会(平成9年度～10年度)」及び「工学教育プログラム実施検討委員会(平成11年度～12年度)」において、参加した17大学18工学系学部をリードしながら常に中心的役割を担い、

その成果を各種報告書として取りまとめました。今回の受賞は、こうした工学教育の改革に大いに貢献した功績が認められたものです。

同研究科では、同教授の工学教育賞及び文部科学大臣賞の受賞を記念して報告会及び懇談会を7月30日、グリーンサロン東山ミーティングルームにおいて、椿原治(社)日本工学教育協会専務理事、原田耕作日本技術者教育認定機構専務理事等をはじめ、後藤工学研究科長等の下で開催し、長年の取組みの成果が認められたことを祝いました。

最後に、中塚勝人 東北大学工学研究科長からあいさつがあり、より一層の工学教育プログラムの改革を誓い、受賞報告会を閉会しました。



工学教育賞及び文部科学大臣賞を受賞した架谷教授



附属高校が第1回「一日総合大学」を実施

教育学部附属中・高等学校では、7月7日、高校2年生(116名)を対象に、第1回「一日総合大学」を開催しました。これは、高校2年生に大学での研究活動の様子を紹介することにより、特設教科「総合人間科」での自主的な調査・研究活動の参考としてもらうとともに、将来の「進路」選択に役立ててもらうことを目的に実施されたものです。

附属学校では、平成12年度より「『高大の連携』を生かした『青年期のキャリア形成』』という研究主題で、文部科学省より研究開発の委嘱を受けて研究を続けているところで

あり、研究開発の研究主題である「高大の連携」の試みの一つとしての役割も兼ねています。

今回は、本学の各研究科等の教官に加え、金城学院大学及び愛知県立芸術大学からの協力も得て、12講座を開講しました。次回は、さらに開講講座を増やしたり、授業時間(今回は50分)を延長するなど、生徒の要望を取り入れて開催することを検討しており、今後の更なる協力が期待されています。



栗本 情報文化学部助教授の講座(保護者も参加)



島田 医学部教授を囲んで



熱帯・亜熱帯地域の 野外研究活動に関わる 健康管理セミナーを開催

農学国際教育協力研究センターでは、熱帯・亜熱帯地域で野外研究活動に関わる全部局の教職員・大学院生・学部生向けに、「熱帯・亜熱帯地域における健康管理セミナー」を6月28日、国際開発、文学、生命農学の各研究科の教官・大学院生を中心に24名の参加者を得て、農学部第10講義室において開催しました。

講師の宮崎豊 愛知県衛生研究所所長からは、国別、時代別による各種ワクチンの解説、重要な疾病の予防と罹患のリスク・アセスメント、さらにマラリア予防薬の服用の仕方などTPOを念頭においた健康管理についての講演が行われ、その後、守野繁 農林水産省動物検疫所名古屋支所検疫課長及び石本征夫 農林水産省名古屋植物防疫所調整指導官から、検疫所の業務について紹介があった後、日本に持ち込み可能な動植物・食品の種類や書類上の手続き等について説明がありました。

本学からも毎年相当数の教職員・学生が熱帯地域に出かける今日、危機管理の一つとして不可欠な健康管理がより適切に行えるよう、この種のセミナーを活用することが望まれます。



宮崎氏による講演



第1回理学懇話会が開催される - 「生命科学をめぐる研究の 現状と将来」をテーマに -

理学部・理学研究科広報委員会（委員長：福井康雄教授）は、6月29日に「生命科学をめぐる研究の現状と将来」をメインテーマとして、第1回理学懇話会を開催しました。

これは、広報活動の一環として、最先端の研究の現状等について教職員、大学院学生及び学部学生を対象に分かり易く説明し、同分野の研究だけでなく異分野の研究を理解しあうことにより、相互に研究上の刺激や活力を得る場となることを目指して企画されたもので、二つの最先端科学に関する講演が、理学部大会議室において行われました。

講演は、はじめに町田泰則 理学研究科教授から「遺伝子を知れば、生物はわかるのか」をテーマに、続いて倭 剛久 理学研究科助教授からは「生物が光をつかう仕組み」をテーマに行われ、用意した席を遙かに超える90名余の参加者があり、会場は熱気に包まれました。両講演とも液晶プロジェクター等を利用し、「最先端の研究を分かり易く」との意図が十分反映された講演内容で、講演後も予定時間を超えて活発な意見交換が行われました。



町田教授による講演



工学部懇話会を開催

- 連携を密にし、よりよい教育、入試改革を目指して! -

工学部懇話会が、6月29日に工学部において、「工学部における教育システムおよび入学試験改革」をテーマに、愛知、岐阜、三重、静岡の東海4県を中心に滋賀、福井、石川、富山の各県から89高等学校、99名の高校教諭及び工学研究科の教育及び入試に関する教授の出席を得て開催されました。

会議に先立ち、後藤工学部長からあいさつと会の主旨説明があった後、大学側のパネラーから、工学部の教育システム及び入学試験の改革について、「基礎科目を重視し現在の科学・技術の水準を理解し、創意改善しながら工学を応用する能力のある技術者・研究者の育成」を目的に学部教

育を進めていること及び一般教育と専門教育が融合した四年一貫教育システムについて、新推薦入試を導入して最初の試験に対する評価や大学側の取り組み及び導入に至った経緯等の説明が行われました。

休憩を挟み、高校側のパネラーから、新推薦入試制度の評価と実施時期の改善について報告があり、その後、高校生の基礎学力の低下についての意見交換が行われました。

本懇談会は、工学部の自己評価の一環という側面も持っており、今後これらの意見を参考として、相互の連携を密にしながら学部教育の在り方や入試制度について検討を重ねていく予定です。



後藤工学研究科長によるあいさつ



参加者による意見交換



工学概論第4「がんばれ後輩！」が行われる - 先輩から後輩へ 生の社会の声を -

工学部では昨年に引き続き、7月24日、25日の両日、工学概論第4「がんばれ後輩」が1年生を対象に開講されました。同科目は、社会の第一線で活躍している同学部卒業生を講師に招き、工学を学ぶ意義、面白さをそれぞれの体験をもとに講義していただくもので、同学部に入学して3ヶ月余りが経過した学生に、改めて大学で何を学ぶのか、自分の目標をどこに定めるのかを考える契機となるように実施しているものです。

当日は、厳しい暑さにもかかわらず、170名の学生が受講し、熱心に先輩の話に聞き入っていました。

受講後のレポートからは、「実社会の厳しさが分かった」、「何か問題が起こった時にどのように行動したらよいかを考える大切さを知った」、「これから自分自身がやらなければならないことが少し見えてきたような気がする」、「人から言われたことをこなすだけでなく、自分から何かを始

めることができる力を付けたい」、「大学に何のために入ってきたのか、考え直すきっかけをもらった」等々の感想が得られ、この講義が学生に実りあるものとなり、今後の学生達の進む過程の一助となることが期待されます。

(講義日程)

7月24日

10:30~12:00

トヨタ自動車(株) 第2開発センター ZE
チーフエンジニア 吉田 健 氏

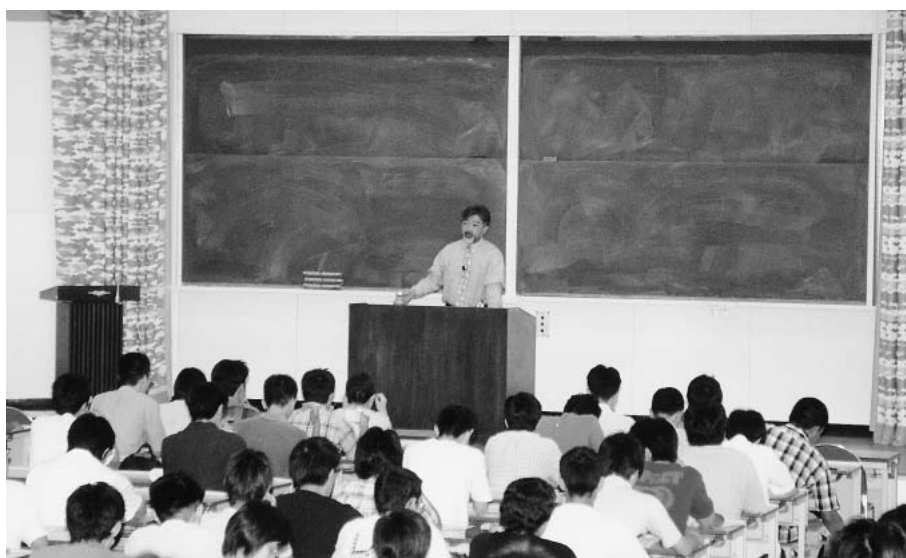
13:00~14:30 (株)NTT ドコモ東海

代表取締役社長 足立 邦彦 氏

7月25日

10:30~12:00 (株)インフォウェア

代表取締役社長 鳥居 聖 氏



先輩の興味深い講義に耳を傾ける学生達



教育学部と韓国高麗大学との学生交流が実現

韓国高麗大学の教官・大学院学生・学部学生一行（団長：韓龍震 副教授）14名が、6月29日に本学を訪問したことを受けて、教育学部を中心に交流行事が活発に行われました。教育学部と高麗大学師範学部は、平成11年度に学部間学术交流協定を締結しており、「国際社会文化コース」3年次に「海外教育調査」を必修科目として設け、一昨年、昨年と2度にわたり学部学生十数名が教官の引率のもと韓国を訪れ、高麗大学の教官・学生との交流の機会を持ってきました。今回は高麗大学側から初めての来日・訪問となるもので、昨年度の外国人研究員（客員）として大学院教育発達科学研究科で研究・教育に従事された韓 副教授の企画と尽力によって実現しました。

交流行事は、日本の教育問題に関する特別講義、グリーンサロンでの昼食懇談会、附属中学校・高等学校の授業見学、学生の問題提起による教育問題討論会等が実施され、本学部教官と韓国からの大学院留学生の協力による日韓通訳もあって、日韓二カ国語による直接的な討論、質疑応答が活発に行われました。

また、翌30日には、高麗大学一行は奈良見学のバス旅行に出かけましたが、本学の学生も多数参加し、学生レベルでの交流も実り多いものとなりました。

同学部では、今後も新たな日韓両校の交流を企画していく予定です。



附属中学校・高校の総合情報教育棟において授業見学（家庭科）



教育問題討論会を終えての記念撮影



東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修を開催 - 「生物・生命科学コース」「物理・化学コース」「情報処理コース」 -

平成13年度東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修が、7月24日から27日までの4日間、本学（生物・生命科学コース）・名古屋工業大学（物理・化学コース）及び核融合科学研究所（情報処理コース）を当番校として実施されました。

この研修は、文部科学省との共催で、同地区国立学校等の技術専門職員及び技術専門職員相当の職にある者に対し、その職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を修得させ、職員としての資質の向上を図るとともに職員相互の交流に寄与することを目的として開催されているもので、今年度は、22機関から87名（生物・生命科学コース27名、物理・化学コース33名、情報処理コース27名）が参加し、本学からは11名が参加しました。

1日目は本学において、野角事務局長のあいさつの後、海老沼 正男 文部科学省大臣官房人事課審査班審査第一係長による「人事行政上の諸課題」、荒木総務部長による「大学行政上の諸課題」、早川先端技術共同研究センター長による「産業創造と大学の役割」をテーマに講義が行われ

ました。

2日目以降は、各コース毎の会場に分かれ、本学では、小川環境学研究科長による特別講演に引き続き、生命科学というテーマに沿って菊池医学研究科教授「DNA トポアイソメラーズ - 生化学から病態」、吉田同研究科教授「DNA複製と修復」、臼倉同研究科助教授「細胞の構造と生命」、塚越生命農学研究科教授「環境への微生物利用」、木村同研究科教授「地球を支える土の働き」等の講義が行われ、その後西山技術専門官（医学部）による先輩講話が行われました。

講演後は4班に分かれて「PCR法による個体識別」「PCR法を用いた真菌の同定」「生物組織の形態観察と元素分析」「組織標本作成と共焦点レーザー顕微鏡観察」の実験・実習を行い、その後各務原市にある斬新な建物の天野エンザイム株式会社岐阜研究所を訪れて施設見学を行い、猛暑の中での厳しいスケジュールながら、研修生にとって有意義な研修の機会となりました。



企業の担当者から説明を受ける受講生



熱心に聴講する受講生

新任部局長等の紹介



事務局長
小池啓三郎
(こいけ けいざぶろう)
昭和20年2月生
平成13年8月1日発令
(略歴)
昭和38年4月
九州大学採用
昭和51年4月
文部省
昭和60年4月
長崎大学経理部主計課長
昭和62年1月
文化庁長官官房会計課課長補佐
平成元年10月
文部省大臣官房会計課第三予算班主査
平成3年4月
文部省大臣官房会計課第二予算班主査
平成6年4月
文部省大臣官房会計課総括予算班主査
平成6年7月
文部省大臣官房会計課予算企画調整官
平成9年7月
文部省大臣官房企画官
平成12年6月
文化庁文化部国語課長
平成13年8月
名古屋大学事務局長



退職者へ永年勤続者 表彰が行われる

平成13年7月31日付けで退職される、野角計宏 事務局長への文部科学省永年勤続者表彰伝達式(退職時)が7月27日、総長室において行われ、松尾総長から野角 事務局長に文部科学大臣からの表彰状と記念品(銀杯)が手渡されました。

野角事務局長は、昭和44年4月に文部省初等中等教育局に奉職以来、32年4ヶ月にわたり文部行政の遂行に貢献され、また、本学においては2年4ヶ月間、大学の管理・運営にご尽力いただきました。



総長から表彰状を受ける野角事務局長(当時)



ウズベキスタン・ サマルカンド 国立大学長が来訪

6月7日、Rusyam Kholmuradov サマルカンド国立大学校長ら2名が本学を訪問し、松尾総長、北住法学研究科長、河野同研究科評議員、市橋同研究科教授及び鮎京同研究科教授と懇談しました。

サマルカンド国立大学法学部は、2000年7月に法学研究科と部局間学術交流協定を締結しており、今後の両大学間における学術交流の更なる拡充及び学生交流の促進等について意見交換が行われました。





韓国・忠南大学校 総長が来訪

7月5日、李 光鎮 忠南大学校総長ら2名が本学を訪問し、奥野副総長、岸田経済学研究科長、安藤同研究科評議員と懇談しました。

忠南大学校経商大学とは、1999年2月に経済学研究科と部局間学术交流協定を締結しており、今後の両大学間における学术交流の更なる拡充及び学生交流の促進並びに大学の独立行政法人化等について意見交換が行われました。



訃報 芦田 淳 元学長逝去

本学第6代学長の芦田 淳 名誉教授は、7月11日午後1時33分、急性心筋梗塞のため逝去されました。享年87歳でした。

同名誉教授は、昭和13年3月東京帝国大学農学部農芸化学科を卒業後、大阪帝国大学助教授を経て、昭和28年5月本学農学部教授に就任され、評議員、農学部長を歴任された後、昭和44年5月に学長事務取扱、同年7月に学長に就任され、昭和50年7月任期満了により退官されるまで、20有余年の永きにわたって、農学の研究、後進の教育指導をはじめとして大学の管理運営に尽力されました。

同名誉教授は、この間、農学部草創期の教育研究の充実に貢献されるとともに、本学の懸案であった農学部の東山地区への移転に向けて多大の努力をされ、昭和41年にそれを実現されました。

また、昭和43年から同45年までのいわゆる「大学紛争」のさなかに学長として最も困難な局面を乗り切られ、水圏科学研究所等多数の施設の設置に尽力されるなど、今日の名古屋大学の発展に貢献されました。

ここに芦田元学長のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。



INFORMATION

伊藤圭介没後100年記念シンポジウム 「江戸から明治の自然科学を拓いた人」

伊藤圭介（1803 - 1901）は幕末から明治にかけて活躍した植物学者・医師で、本学医学部の創設に深い関わりを持っていました。附属図書館は、彼が著した本草学に関する貴重な資料であり、植物研究の集大成ともいえる「錦窠植物図説」（「錦窠」は伊藤圭介の号）をはじめとする自筆稿本を集成した伊藤文庫を所蔵し、これまでに作成した画像データベースをインターネットを介して広く国内・国外に公開しています。

本年は伊藤圭介の没後100年にあたることから、彼の業績を称え、著作をはじめとする関係資料の展覧会及び足跡をたどるシンポジウムを下記のとおり開催します。

主 催：名古屋大学附属図書館 名古屋市博物館
日 時：平成13年9月16日(日) 午後1時30分～4時30分
会 場：名古屋市博物館講堂（地下鉄桜通線「桜山」下車）

基調講演 「伊藤圭介と日本の科学のあけぼの」 遠藤正治 愛知大学非常勤講師

司会進行 杉山寛行 名古屋大学大学院文学研究科教授

パネル討論

コーディネーター 山内一信 名古屋大学大学院医学研究科教授

パネラー

岩崎鐵志 静岡文化芸術大学教授

西川輝昭 名古屋大学博物館教授

土井康弘 東京大学先端科学技術研究センター協力研究員

山口隆男 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授

岸野俊彦 名古屋芸術大学教授

大場秀章 東京大学総合研究博物館教授

INFORMATION

大学史資料室公開シンポジウム
「開かれた大学」とこれからの文書資料管理・情報公開

これからの情報公開社会においては、地域にある行政文書や歴史資料を適切に管理・公開することが求められます。しかし国内では、それら文書資料の管理方法や公開方法についての知識が確立・普及していないばかりではなく、管理・公開業務を担う専門職員の養成体制も決して十分とはいえないのが現状です。

本シンポジウムでは、学外有識者をパネリストに招いて、これからの地域文書資料（館）の役割について考えるとともに、そうした地域文書資料管理を担当する機関と連携しながらその活動を支援する「開かれた大学」としての大学資料館（大学アーカイブズ）のあり方を探っていきます。

- 日 時：平成13年9月20日(木) 午後1時～5時
会 場：シンポジオンホール
予 定：12：00 受付開始
13：00 開会あいさつ
13：10 講演1「大学文書館（大学アーカイブズ）- その意義と新しい役割 -」
講師 寺崎 昌男 桜美林大学教授（日本教育学会長）
14：20 講演2「情報公開社会におけるこれからの文書資料管理」
講師 小川千代子 国際資料研究所代表
15：40 全体討議
17：00 閉会

主催・問い合わせ先：名古屋大学大学史資料室
TEL & FAX：052 - 789 - 2046
E-mail：nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp
URL：http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp

 INFORMATION 

名古屋大学職員創作美術展・作品募集について

本年度の職員創作美術展を下記の実施要領により行いますので、奮って出品されるようお願いいたします。

なお、出品の申込み先は、所属の人事担当掛を通して人事課厚生掛に申し込みください。

また、出品の申込み期限（人事課厚生掛申込み期限：9月21日(金)）については、所属の人事担当掛にお問い合わせ願います。

平成13年度名古屋大学職員創作美術展実施要項

1 趣 旨

職員自ら創作活動を楽しみ、美術作品等の鑑賞を奨励するとともに、潤いのある情操豊かな生活、余暇の一層充実した活用を促し、生活に根ざした文化の普及・高揚に資することを目的とする。

2 応募資格等

本学職員とし、出品は1種別につき3点までとする。

3 応募作品の範囲

絵画、書道、写真、彫刻、陶芸、手工芸、生け花

4 展示期間等

期 間 平成13年10月23日(火)～10月26日(金)

時 間 10時～16時（ただし、10月26日(金)は15時までとする。）

5 展示場所

シンポジオンホール

6 作品の搬入等

(1) 作品は、10月22日(月)15時～17時の間に、出品者が展示場所に搬入すること。

なお、作品は、額等に入れ、展示できる状態で搬入すること。

(2) 作品は、美術展終了後の10月26日(金)15時～16時の間に、出品者ごとに返却する。

7 企画及び運営方法

創作美術展の企画・運営は、出品者の協力を得て人事課で行うものとする。

8 その他

応募作品は無審査とし、名大トピックスに1人1作品掲載する。

問い合わせ先

総務部人事課厚生掛

内線 5980

INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（13年7月分）

	記 事	月 日	新聞等名
1	8日に理学研究科・福井康雄教授、松原隆助教授が「名古屋大学星の会」で講演	7.1(日) 7.4(木)	読売 中日(朝刊)
2	独自の発想で勝負！数学コンクール挑戦者募集	7.2(月)	中日(朝刊)
3	23日に博物館で中学生のためのネイチャーウォッチング開催	7.2(月)	読売
4	26日から29日にかけて言語文化部・国際言語文化研究科公開講座開催	7.3(火)	中日(朝刊)
5	医学部・上田実教授のグループが「歯茎の骨」注射で再生、重い歯周病に効果	7.4(水)	読売
6	8月6日から8日に工学部主催のテクノフロンティアセミナー開催	7.4(水)	読売
7	10日に中区役所ホールで学習会「イネ・米・ごはん」理学部・河田昌東助手が講演	7.4(水)	中日(朝刊)
8	自己を守るシステム、免疫の不思議 医学研究科・中島泉教授に聞く	7.4(水)	毎日(夕刊)
9	近況心境：アートと産業・街づくり結ぶ 人間情報学研究科・茂登山清文助教授	7.4(水)	朝日(夕刊)
10	日本メナード化粧品が本学と共同で荒れ肌の構造を解明、化粧品・医薬品に応用へ	7.5(木)	日経(朝刊)
11	実例に見る知的財産権問題 - 青色発光ダイオード 赤崎勇教授が加わった豊田合成グループなど日米の企業が特許紛争	7.5(木)	日刊工業
12	引きつける授業、教員に「とらの巻」 高等教育研究センター・池田輝政教授の話	7.7(土)	日経(朝刊)
13	2002年度入試要項で4学部英語のリスニング試験を延期	7.10(火)	中日(朝刊)
14	26日に豊田講堂にて計測自動制御学会学術講演会・一般公開イベント開催	7.10(火)	中日(朝刊)
15	19日にアイソトープ総合センターなど主催でシンポジウム開催	7.10(火)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
16	8月1日に博物館で講演会開催	7.10(火)	中日(朝刊)
17	さーくるナビ：名古屋大学観世会能演じる楽しさ実感	7.10(火)	中日(朝刊)
18	論陣：京都議定書 再開会合にどう挑む 森島昭夫名誉教授	7.10(火)	読売
19	工学研究科・後藤俊夫教授ら SC 光の生成に成功、DNA 評価に道	7.11(水)	日刊工業
20	医学部・吉田純教授が IT を活用した脳卒中救急医療情報ネットワークを開発	7.11(水)	中日(朝刊)
21	大学病院日誌：病院に経営感覚。非医師が副院長 医学部・大島伸一教授	7.11(水)	朝日(朝刊)
22	名古屋で遺伝子組み換え問題に関する集い開催される 理学部・河田昌東助手が講演	7.11(水)	中日(朝刊)
23	訃報：芦田淳元学長11日に急性心筋梗塞のため逝去	7.12(木)	中日(朝刊) 他2社
24	東海の大学、NGOなどで自治体の国際協力へ支援シンクタンク設立に本学も参加	7.12(木)	中日(朝刊)
25	日本の将来左右する選挙 法学部・小野耕二教授	7.12(木)	中日(朝刊)
26	90年代の温暖化影響？ヒマラヤ氷河急速に縮小 環境学研究科・上田豊教授、藤田耕史助教授らの研究で明らかに	7.12(木)	読売
27	医学の現場から：期待される脳血管内治療 医学部・宮地茂助教授	7.13(金)	中日(朝刊)
28	年代測定総合研究センター・鈴木和博教授らが東海豪雨の跡地調査で16世紀の古木など発見	7.13(金)	中日(夕刊)
29	年代測定総合研究センターが夏休みに体験授業を開催	7.16(月)	中日(朝刊)
30	数学コンクール論文賞の2テーマを発表	7.16(月)	中日(朝刊)
31	本学に受験資格求め朝鮮中高級学校生が要望書	7.17(火)	読売 他3社
32	平成13年度公開講座「あきらめない・あきらめる」	7.17(火)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
33	豊田市教育委員会の審議会委員に 本学教育学部2年の井上真美さん 選ばれる	7 .1ㄗ(火)	中日(朝刊)
34	政権交代必要です。 工学部化学工学科研究生 稲葉裕一さん	7 .1ㄗ(火)	中日(朝刊)
35	ジャパン留学生日記：世界飛び回 る仕事が夢 大学院生ナタリー・コノミさん	7 .1ㄗ(火)	中日(朝刊)
36	ゴミ捨てマナーどう向上 昭和区で学生や行政代表が意見交 換に本学環境サークルも参加	7 .1ㄗ(火)	中日(朝刊)
37	医学部・吉田純教授らが開発した 遺伝子治療2例目が今月下旬にも 再開へ	7 .1ㄗ(水)	毎日(朝刊) 他4社
38	論点：「議定書」小泉改革の試金石 に 環境学研究所・柳下正治教授	7 .1ㄗ(水)	読売
39	近況心境：建築使って歴史全体を語る 工学部・西澤泰彦教授	7 .1ㄗ(木)	朝日(朝刊)
40	中央新幹線沿線学者会議がシンポ ジウム開催 奥野信宏副総長がコーディネーター を務める	7 .1ㄗ(木)	中日(朝刊)
41	科学技術振興団がプレベンチャー 支援事業で10件選定 工学研究科・ 篠田剛助教授の課題が選ばれる	7 .1ㄗ(木)	日刊工業
42	大学の特許公開は国立大が躍進、 本学は27件で2位に	7 20(金)	中日(朝刊)
43	バイオ研究、特許で還元「いのち の未来」講座7月講座で医学研究 科・上田実教授が講演	7 21(土)	サンケイ
44	わが青春の母校：名古屋大学教育 学部附属中学校・高等学校 高い教養と広い視野を養う	7 21(土)	毎日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
45	東北大学と本学で技術課題を解決 できる能力を備えた技術者育成の 試みが始まる	7 23(月)	日経(朝刊)
46	医学部脳神経外科グループ、遺伝 子治療2例目開始	7 23(月)	朝日(夕刊) 他3社
47	経済学研究科が運営主体で社会人 向けの欧米型ビジネススクール新 設、来春 MBA 講座開設	7 26(木)	日経(朝刊)
48	法政情報交流センターにてカンボジ ア学生招き、司法めぐり意見交換	7 26(木)	中日(朝刊)
49	法学部・小野耕二教授が学生と法 学部学生対象に政治意識を調査、 小泉内閣支持率56%	7 26(木)	朝日(夕刊)
50	医学研究科・貝淵弘三教授ら研究 グループが神経細胞形成に重要な 役割もつ特定たんぱく質を解明	7 27(金)	中日(朝刊)
51	本学で「オープンソースの集い in 名古屋」開催される	7 27(金)	中日(夕刊)
52	政策にさまざまな異論潜在 法学部・小野耕二教授	7 30(月)	毎日(夕刊)
53	さーくるナビ：名古屋大学クイズ 研究会	7 31(火)	中日(朝刊)
54	教養の定番：「芸能人別帳」 すすめる人 医学部・大島伸一教授	7 31(火)	中日(朝刊)

(6月分)

	記 事	月 日	新聞等名
追加	心筋梗塞の発症率解明 名大などのグループ 医学部・横田充弘助教授	6 .2(土)	中日(朝刊) 岐阜

この記事については企画広報室にて収集しておりますが、お気づきのことなどがありましたらご連絡ください。

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話：052（789）2016

E-mail：kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp